

中国語部門（現代中国学部）

第20回外国語コンテストの中国語部門（現代中国学部）が2014年11月20日（木）午後15時半より講義棟804教室で行われた。《課題部門》には現代中国学部の1年生が参加、《自由作文部門》には2年次以上の学生が参加した。今回のコンテストの時間帯はあいにく「さくら21」プロジェクトのガイダンスと重なったため参加者は例年より少なく、両部門で合計12名しか参加しなかった。審査には劉乃華先生、塩山正純先生、劉柏林の3名が当たった。

《課題部門》の課題は「拔苗助長」（苗を抜いて長ずるを助く）という中国の諺であった。中国で広く知られた話だが、日本でも「助長」の語の語源としてよく知られている。早く成長させようとして苗を引っ張って枯れさせてしまう。功を急ぐあまり方法を誤り失敗することの譬えに用いられたテーマである。中国語を一年間足らずしか勉強していない学生であったが、勇気をもって堂々とコンテストに参加した。これは、十分、称賛に値しすることであった。参加した発表者の中国語の発音と表現力及びその真剣さは高く評価できる。入賞した以下の3人の差はあまり大きくはなかった。

第1位 森山 麗海（14C8065）

第2位 大竹 真璃奈（14C8094）

第3位 塩井 晴貴（14C8092）

《自由作文部門》の入賞者は以下であった。

第1位 古橋 理沙（11C8176）

第2位 本竹 紗和子（13C8030）

第3位 前田 春香（12C8073）

古橋理沙さん発表のテーマは「永遠不会忘記」（いつまでも忘れられない）である。中国で一年間留学している間にいろんな国の留学生に出会い、彼らと勉学で互いに励ましあい、生活でも助け合って、固い友情が結ばれる。彼女は、その友情を大事にし日本に持ち帰ったことを語ってくれた。

本竹紗和子のテーマは「夢的起点」（夢の始まり）である。体の不自由な本竹さんは生まれて初めての海外旅行にでかける。いろいろと心配しながら中国に渡り、現地の人々の親切さに感動させられる。車いすに乗っている彼女にとって、バリアフリーの完備されていない中国ではあったが、中国の人たちの至れり尽くせりの配慮によって、行く先々で、障害物を乗り越えることができた。中国の旅を通して、中国人との心のバリアがなくなった感想を語ってくれた。

前田春香さんの発表は「駿馬」というテーマである。彼女は、自らの健康のため、医者判断によって、首を長くして待ち望んだ中国現地プログラムに参加できなくなってしまう。だが、その「不幸」は、日本に残った他の6名の学生と一緒に頑張る友情が結ばれた喜びへと転じる。「人間万事、塞翁が馬」の諺を引用して、禍福測り難い道理を肌で感じ取ることができたと語ってくれたのである。

発表者の3人は発音と表現力に留意しながら、自分の肌で感じたことを歯切れよく生き生きと語ってくれ、聴講者は大きく心打たれたのだった。